

渋皮剥皮性に優れ 9 月上旬に収穫できるクリ新品种「ぼろすけ」

[要約]

「ぼろすけ」は、「丹沢」と同時期の 9 月上旬に収穫できる早生品種であり、樹姿は中間性で樹勢は中程度である。果実は平均 17g と小さく、比重が大きく、果肉色が黄色く、果肉が粉質である。

茨城県農業総合センター園芸研究所	平成29年度	成果区分	技術情報
------------------	--------	------	------

1. 背景・ねらい

平成 19 年に渋皮剥皮性をもつニホンクリ「ぼろたん」が品種登録された。渋皮剥皮性品種が剥皮性困難な品種と収穫時に混ざらないよう「ぼろたん」の混植樹は収穫時期が重ならない等の条件を考慮する必要があった。このような中、(国研)農研機構果樹茶業研究所で育成されたクリ新品种「ぼろすけ」(交雑親:「550-40」×「丹沢」)は「ぼろたん」と同様の剥皮性をもつ早生品種である。そこで、本県において経年調査し、栽培特性および収量・果実特性を明らかにする。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 「ぼろすけ」の樹姿は中間性で樹勢は中程度で、低樹高栽培しやすい。雄花盛期は「ぼろたん」、「丹沢」より 5~7 日早く、雌花盛期は「ぼろたん」、「丹沢」より 4~5 日早い。収穫期は「丹沢」と同程度であり、「ぼろたん」より収穫盛期は 11 日早い(表 1)。
- 2) 収量は「ぼろたん」、「丹沢」よりも少なく、一果平均重は「ぼろたん」、「丹沢」より 7g 程度小さい(図 1、表 2)。虫害果の発生は「ぼろたん」よりも少なく「丹沢」と同程度である。裂果の発生は、「ぼろたん」と同程度で少ない。
- 3) 比重は大きく、果肉色は「ぼろたん」、「丹沢」と同等で黄色く、果肉は粉質で甘味はやや多い(表 3)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 「ぼろすけ」は「ぼろたん」と同様の剥皮方法により容易に渋皮の剥皮が可能である。また、「ぼろたん」と同様に収穫直後は煮崩れしやすいが、1 ヶ月程度貯蔵することで軽減される。
- 2) 「ぼろすけ」と「ぼろたん」とを相互に受粉したそれぞれの結実率は、「ぼろたん」と従来の受粉樹との結実率と同程度であり(H29 農研機構果樹茶業研究部門)、「ぼろすけ」は「ぼろたん」の受粉樹として利用できる。
- 3) 病虫害防除は茨城県クリ病虫害参考防除例に準じる。
- 4) 平成 28 年 9 月 29 日に品種登録出願公表され、苗木は平成 29 年秋季より販売され

ている。

4. 具体的データ

表1 「ぼろすけ」の栽培特性 (H23~H29) ¹⁾

品種 ²⁾	樹姿	樹勢	展葉期 (月/日)	雄花の開花期 (月/日)			雌花の開花期 (月/日)			収穫期 (月/日)		
				始	満開	落花	始	満開	始	盛	終	
ぼろすけ	中間	中	4/22	6/7	6/11	6/18	6/1	6/9	9/1	9/6	9/14	
ぼろたん	中間	中	4/27	6/10	6/16	6/24	6/3	6/13	9/9	9/17	9/26	
丹沢	中間	中	4/30	6/13	6/18	6/27	6/6	6/14	9/1	9/9	9/16	

1) 「ぼろすけ」は6年間の平均値、「ぼろたん」、「丹沢」は10年間の平均値

2) 「ぼろすけ」は9年生3樹、「ぼろたん」は18年生2樹、「丹沢」は30年生3樹 (H29)

3) 調査は育成系統適応性検定試験・特性検定試験調査方法(平成19年3月果樹研究所発行)に準ずる。



図1 「ぼろすけ」の果実
(左:「ぼろすけ」、中央:「ぼろたん」、右:「丹沢」)

表2 「ぼろすけ」の収量・果実特性 (H27~H29) ¹⁾

品種 ²⁾	樹齢(H29) (年生)	収量		1果重 (g)	比重	裂果率 (%)	虫害果率 ³⁾ (%)	病害果率 (%)
		(kg/樹)	(kg/10a)					
ぼろすけ	9	6.8	327	17.2	1.077	3.2	12.7	8.7
ぼろたん	18	13.3	565	24.9	1.081	1.1	22.4	5.5
丹沢	30	10.2	489	24.0	1.065	17.1	10.4	5.2

1) 「ぼろすけ」は3年間の平均値、「ぼろたん」、「丹沢」は10年間の平均値

2) 供試樹は「ぼろすけ」3樹、「ぼろたん」2樹、「丹沢」3樹

3) 虫害の主な原因はモモノゴマダラノメイガおよびクリイガアブラムシの被害である。

表3 「ぼろすけ」の果肉色・食味 (H29)

品種	果肉色	食味 [*]		
		肉質	甘味	香気
ぼろすけ	黄	粉	やや多	中
ぼろたん	黄	粉	やや多	中
丹沢	黄	やや粉	やや多	やや多

※試験担当者による官能評価

※収穫後1か月冷蔵貯蔵した果実による評価

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

果樹推奨品種決定と生態収量予測・平成25年~平成29年・果樹研究室